

26 行第 125 号
平成 26 年 8 月 25 日

長野市公共施設適正化検討委員会委員長 様

長野市長 加藤久雄

長野市公共施設の適正化について（諮問）

本市が所有する公共施設の適正な配置及び管理運営を実施するための計画である「長野市公共施設等総合管理計画」の策定に向け、公共施設のマネジメント指針、再配置計画及び長寿命化計画の策定について、長野市公共施設適正化検討委員会条例第 2 条の規定により、ご審議の上、ご答申いただきますようお願いいたします。

◎ 平成 27 年 7 月 2 日

長野市公共施設マネジメント指針（案）について（中間答申）

平成 26 年 8 月 25 日付け 26 行第 125 号による諮問を受け、本市が所有する公共施設の適正な配置及び管理運営を実施するための計画である「長野市公共施設等総合管理計画」の策定に向けて、公共施設マネジメント指針（案）について審議を重ねてまいりましたが、このたび別冊のとおり、とりまとめましたので答申します。

◎ 平成 29 年 2 月 20 日

長野市公共施設等総合管理計画（案）について（答申）

平成 26 年 8 月 25 日付け 26 行第 125 号による諮問を受け、本市が所有する公共施設の適正な配置及び管理運営を実施するための計画である「長野市公共施設等総合管理計画」の策定に向けて、審議を重ねてまいりましたが、このたび別冊のとおり、計画（案）をとりまとめましたので答申します。

平成 30 年 8 月 29 日

公共施設適正化検討委員会資料 1 - 3

※長野市として、公共施設適正化検討委員会に、今後の在り方について意見を聞くとともに、随時、市議会、競技団体、地元など関係者の意見を聞き、スパイラルの在り方について検討することとした。

最終的に公共施設適正化検討委員会からの提言に沿って、長野市の方針が決定された

平成 29 年 2 月 20 日

長野市長 加藤 久雄 様

長野市ボブスレー・リュージュパークの在り方について
提 言 書

長野市公共施設適正化検討委員会

委員長 松岡 保正

長野市においては、インフラを含む公共施設等の老朽化が進み、人口減少・少子高齢社会を迎える中、将来にわたり持続可能な行財政経営を行っていくため、市民合意形成を図りつつ公共施設マネジメントを推進しています。

公共施設適正化検討委員会は、本市の公共施設マネジメント推進を踏まえ、2018 年平昌オリンピック以後の「ボブスレー・リュージュパーク（愛称スパイラル）」の在り方について、昨年 11 月から審議して参りました。

ここに提言書をまとめ、提出いたします。

市民の関心も高いことから、この提言を踏まえ、早期に結論を出していただくことを期待します。

(提 言)

2018 年、平昌五輪後の「スパイラル」の在り方については、冬季の製氷は「休止」とすることが妥当と判断する。

ただし、施設は夏期の競技トレーニングに利用して存続し、長野オリンピックメモリアルとして地域の活性化に資する活用ができる方向で検討することが望ましい。

(提言の理由)

1998 年の長野冬季オリンピック終了後、長野市はボブスレー・リュージュ競技会場であった「スパイラル」を 20 年間、競技施設として維持・管理し、オリンピック開催都市の役割を果たしてきた。

この間、国の N T C 指定を受け、スパイラル友の会をはじめとする地元浅川地区の皆さんの献身的な協力を得ながら施設を維持してきたところである。

「スパイラル」は、競技の性質及び施設の特異性から、冬期の製氷等に多額の経費を要し、競技者数も限られているため、国の強化事業委託料を受けていても、利用者一人当たりにかかる経費が突出しており、また、市民による利用が難しい施設であることから、市民の受益と負担のバランスを考慮しなければならない。

また、施設建設から 20 年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、今後も施設を継続していくためには、大規模な改修や更新が見込まれる。

この点は、平成 26 年度の包括外部監査で「長野市の負担において当該施設を維持していくことは困難と判断される。市民に利用されていない施設を市民の税金により負担することは特に考慮すべき事項である」と指摘され、平成 27 年度に市が策定した「公共施設マネジメント指針」においても「施設の在り方について早急に検討する」としている。

加えて、長年アジアで唯一の競技施設であったが、韓国平昌に新たな競技施設が建設され、北京冬季オリンピックに向けた施設建設も見込まれる状況である。

平成 26 年の市民アンケートで「オリンピック施設の将来について」の設問に対して、全ての施設を出来る限り存続させるべきとの回答は 3% と僅かであり、状況に応じて施設ごとに見直しを行うべきとの回答が 9 割を超えていた。

現状においても、施設の維持管理に多大な税負担が生じており、加えて、施設の老朽化に対応するための経費を想定すると、国内唯一の施設と言えども利用者の限られる競技施設を、市が今後も継続して維持することは市民の理解が得られないと考える。

なお、施設を全面的に廃止した場合には、コース撤去等に多大な費用を要することから、当面は、施設にかかる維持管理費を軽減しながら、夏期トレーニング利用のため施設自体は存続し、オリンピックメモリアルとして、幅広い市民の利用及び地域活性化に資する活用が図れるよう、地元浅川地区をはじめ関係する皆さんと一緒に検討していくべきと考える。

(審議経過)

平成 28 年 11 月 24 日 第 18 回公共施設適正化検討委員会

平成 28 年 12 月 25 日 第 19 回公共施設適正化検討委員会 (現地視察)

平成 29 年 1 月 19 日 第 21 回公共施設適正化検討委員会

平成 29 年 2 月 17 日 第 22 回公共施設適正化検討委員会

市議会

公共施設の在り方調査研究特別委員会 委員長報告 主な意見

平成29年9月	将来を見据えた市民合意形成の取組
	トップマネジメントによる推進体制の強化
	計画的な保全と長寿命化の推進
平成28年9月	市民との情報共有の強化
	効果的な市民合意形成の取組
	実効性のある庁内推進体制の構築
平成27年9月	市民合意に基づく公共施設マネジメントの推進
	公共施設マネジメント推進体制の強化
	民間活力の活用
平成26年9月	数値目標の設定と市民との情報共有
	まちづくりを踏まえた施設の再配置
	公共施設の削減、再配置等を目指した取組への考え方や手法

※平成 30 年 9 月定例会においても委員長報告あり

平成 30 年 8 月 29 日

公共施設適正化検討委員会資料 1-3

再配置計画に基づき 整備が進んでいる主な公共施設

(平成 30 年度当初予算資料より)

事業名・担当課	事業内容
(仮称) 篠ノ井総合市民センター 地域活動支援課 家庭・地域学びの課 高齢者活躍支援課	耐震化が必要な篠ノ井支所・公民館及び施設が狭隘な篠ノ井老人福祉センターについて、防災拠点ともなる 複合施設 として一体的に整備する <ul style="list-style-type: none">・事業期間 平成 27 年度～32 年度・総事業費 約 25 億円・平成 30 年度事業内容 建設工事 <p>(廃止した「篠ノ井市民会館」跡地に建設)</p>
(仮称) 芹田総合市民センター 地域活動支援課 家庭・地域学びの課	老朽化した芹田公民館について、芹田支所と合築した総合市民センターを建設することにより、防災拠点ともなる 複合施設 として一体的に整備する <ul style="list-style-type: none">・事業期間 平成 27 年度～31 年度・総事業費 約 11 億円・平成 30 年度事業内容 建設工事 <p>(現「芹田公民館」北側駐車場に建設)</p>
(仮称) 中条総合市民センター 地域活動支援課 家庭・地域学びの課、博物館	老朽化により耐震化が必要な中条支所、中条会館、中条公民館及び中条歴史民俗資料館について、防災拠点ともなる 複合施設 として一体的に整備する <ul style="list-style-type: none">・事業期間 平成 29 年度～33 年度・総事業費 約 20 億円・平成 30 年度事業内容 実施設計、用地取得ほか <p>(現「中条公民館」「歴史民族資料館」跡地に建設)</p>
第一学校給食センター改修 保健給食課	第一学校給食センターの全面改築を行うことで、安全安心かつ安定的な給食を提供するとともに、全市域でのアレルギー対応食の提供を進める <ul style="list-style-type: none">・事業期間 平成 28 年度～31 年度・総事業費 約 39 億円・平成 30 年度事業内容 設計・建設工事 <p>(現地改築後、第三学校給食センターを廃止)</p>

平成 30 年 8 月 29 日

公共施設適正化検討委員会資料 1 - 3

◎ 整備の方針が出ている主な施設

・松代荘リニューアル（観光振興課、高齢者活躍支援課、保健所健康課）

近接する「保健保養訓練センター」を転用して、老朽化した「松代老人憩いの家」を移転
解体する「松代老人憩いの家」の敷地も活用して「松代荘」をリニューアルし機能強化を図る

・公文書館の移転整備（庶務課）

現在入居している「城山庁舎」の老朽化が進んでいるため、「旧フルネットセンター」を改修し
「公文書館」を移転

城山庁舎は解体し、県立美術館整備に併せて検討している城山公園の再整備の中で活用する

・もんぜんぷら座の耐震改修（市街地整備課）

老朽化が進み耐震化が必要な「もんぜんぷら座」について、耐震改修と必要な防災用設備を更新
新田町交差点周辺のまちづくり等、長期的な課題を含め「もんぜんぷら座」の在り方を検討する

・飯綱高原観光施設のサウンディング型市場調査（観光振興課）

飯綱スキー場の民間譲渡と（仮称）山の駅整備を含むグリーンシーズンの強化に向けて、サウン
ディング型市場調査を行い、民間の知恵を活かした事業計画を検討する